

体に優しい血管内治療のご紹介

血管外科では、下肢の動脈が詰まって歩けない、足が痛む、足が腐るという下肢閉塞性動脈硬化症と、静脈が累々と腫れる下肢静脈瘤の診療等を行っています。

その中の診療としてカテーテルという細い治療用の管を使う治療法があり、これを**血管内治療**といいます。従来の手術治療は全身麻酔下に大きな切開を必要とし、体に対する負担が大きかったのですが、血管内治療は局所麻酔下に細い管を挿入して行う体に優しい手術方法です。



下肢閉塞性動脈硬化症は下肢の動脈が詰まって、足が冷たくなったり、長い距離を歩けなくなったり、最悪の場合足が腐って切断が必要となったりする病気ですが、最近ではほぼ90%の症例で血管内治療が可能になっています。大きな切開をして、バイパス手術をすることは少なくなりました。また**下肢静脈瘤**は伏在静脈という下肢の表面近くを走行する長い静脈に逆流が起こり、その結果枝の部分がふくれて瘤になる病気です。進行すると足がだるくなったり、静脈炎になったりして歩行が困難になる病気です。この病気も最近では先端からレーザー光線の出る細い管で逆流のある伏在静脈を焼灼する血管内レーザー焼灼術がほとんどの症例で行われるようになりました。いずれの血管内治療も当院で行うことができます。今回、血管内治療と笠岡第一病院で経験した血管内治療症例を紹介します。

下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術

当院には第2世代のレーザー焼灼装置が導入され、切開してバイパス手術をしていた第1世代に比べ血管内レーザー焼却術は出血、疼痛が圧倒的に少ないという特徴があり、患者満足度の高い治療が可能となっております。井笠地区では唯一当院にのみ設置されております。

2018年7月26日に第1例を経験し、2019年3月末までに計71例の血管内レーザー焼灼術を行いました。

治療効果も良好で、口コミで当院を希望される方も増えつつあります。



下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療

高度な血管内治療を可能にするのは、高精細な血管造影装置と優秀なスタッフが必要ですが、当院にはドイツシーメンス社製の最新型装置が導入されており、さらに循環器内科阿曾沼医師、浦川医師との協力もあり、盤石な体制であります。岡山、倉敷、福山などに出向かなくても難度の高い症例に対して血管内治療が可能となっております。

2018年7月17日に第1例を経験しましたが、2019年3月末日までに計29例の治療を行い、いずれも良好な結果を得ております。

下肢閉塞性動脈硬化症



術前

術後

受診から手術までの流れ

足がやたらと
浮腫む、痛い…
こんなお悩み症状が
あったら…

血管外科
受診・検査

超音波検査(下肢血管)
下肢造影CT-A

血栓・瘤なし

血栓・瘤あり

経過観察

- 運動やマッサージ
- 弾性ストッキング着用

手術適応なし

内服治療

手術適応あり

レーザー焼灼術
1泊2日

カテーテル治療
1泊2日



血管造影装置

血管外科予約・受診の
お問い合わせ

0865-67-0211

げんき通信<47>



笠岡第一病院
笠岡市横島1945
☎0865-67-0211